

# 事例集

## 事例紹介：介護事業所①

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・新規利用者、モニタリングの際に事前情報を入力し、自身の知識確認のため活用した。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・身体状況、病気の時に必要な情報は何か確認したり、その情報をもとに質問事項をまとめ、面談時に活用した。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・利用者にこれまでの学習データを基に「AI」からのサービス提案があることは、新鮮な体験のようであることと、根拠をもってサービスの提案できると感じた。

### 【AIを使って良かった点】

- ・利用者がサービス内容を把握し利用希望があった場合、そのサービスをプランに加えることがある。利用者の意向を汲むことが優先され、適切なサービス提供がなされているか不安があった。改善志向プランより発案されるサービスを共に確認することで、今の生活課題を見直してもらった機会になった。

## 事例紹介：介護事業所②

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・新規ケースの訪問後に収集情報の確認と整理に活用。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・ケアプラン作成時に分析結果を確認した。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・「適切なケアマネジメント手法」が活用できるのは大変ありがたい。インタビュー後にSOINを利用すると、冷静にケースを見つめる機会が生まれる。情報収集の見落とし、利用者の考えとニーズの乖離など、時間に追われて考えられていないと感じる点を見つめ直すことができる。

### 【AIを使って良かった点】

- ・自立支援・重度化防止の観点から分析結果など情報が出力されるため、とても良いと思う。

## 事例紹介：介護事業所③

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・複数のサービスを継続利用検討時に、サービス活用が適切か確認を行った。
- ・ケアプラン更新時、疾患を複数お持ちの方に利用。疾患についての注意点などを確認した。
- ・福祉用具のみ利用し、AIなどこういったものに関心のある方に利用。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・複数サービスを利用中で、サービスの見直しの際に利用。
- ・限度額がギリギリの方やサービスの積極的利用が必要と思われるがサービスが使われていない方の対応について相談をした。
- ・医療の訪問看護が必要だが導入ができていないケースの相談を行った。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・カーソルを動かさずとも入力ができるのは操作が楽でよい。
- ・日常業務の中の気づきを相談しやすい。

### 【AIを使って良かった点】

- ・訪問看護が必要だが、利用されていないケースについて相談。家族のサポート手厚い状態であったが、家族へサービスの適切な対応方法についてAIの回答をもとにアドバイス伝えることができ、家族支援につながった。利用者は「市が進んだことをやっている」と喜ばれていた。

## 事例紹介：介護事業所④

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・新規ケース。訪問後の情報整理のために利用。
- ・プラン更新時。同じサービスを長く使っており、新しい気づきを得るために利用。
- ・試験的に現在走っているケースで使ってみた。AIシステムがどのような回答が出るか気になった。
- ・対応が少し難しいと考えるケース。サービス提案に工夫が必要と感じ、対応方法のアドバイスが欲しかった。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・モニタリング後、事業所に戻りプラン見直し時に利用。視点の抜け漏れを確認した。
- ・訪問時に利用者と共にSOINの情報を見て、利用者自身に今後の状態変化の予測を見てもらい、サービス利用における注意点を確認した。
- ・一般相談時に、聞き取り情報をSOINに入力し、初回訪問前に情報整理、質問事項作成に利用した。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・AIからの提案として、サービスを提案しやすい場合があった。
- ・AIを使うこと自体に十分な根拠があるものと考え、使いこなしたい。

### 【AIを使って良かった点】

- ・「分析結果」の画面は自身(ケアマネ)が考えていた内容の記載があり、自分の考え方が間違っていないと安心した。
- ・1年後の状態予測を利用者と確認し、サービスを検討することができた。利用者がこれからの生活を考えながら、サービスを受ける機会になると思う。

## 事例紹介：介護事業所⑤

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・介護保険更新をかけ、区分が要支援1から要支援2となった利用者。介護サービスへのこだわりがあり、AIシステムに相談をした。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・脳梗塞後、階段昇降、自宅内の移動が難しくなり、利用者宅に訪問し、状況確認を行った際に、SOINに入力。現在利用中のサービスと、現在の身体状況を入力し改善志向プランを出して、1年後の予測、悪化・維持・改善のグラフを利用者と確認した。

本人は友人のいるデイサービスに通いたいと話していたが、エレベーターの無い、マンションの3階に住んでおり、訪問リハビリを提案。階段昇降が可能となってから、デイサービス通所を目指すプランとなった。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・利用者本人がデイサービスを強く希望された。AIシステムに本人の意向と、こちらのサービス提案内容を入力。AIシステムとの会話の中で、その要因が気軽に外出できない社会参加の機会喪失であると、分析結果や「SOIN AI Chat」から教えてもらうことができた。

### 【AIを使って良かった点】

- ・「分析結果」の画面は自身(ケアマネ)が考えていた内容の記載があり、自分の考え方が間違っていなかったと安心した。
- ・1年後の状態予測を利用者と確認し、サービスを検討することができた。利用者がこれからの生活を考えながら、サービスを受ける機会になると思う。

## 事例紹介：介護事業所⑥

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・支援している自分の担当者。聞くのがはじめての難病の方に対して、どのようなアプローチがあるのか確認するために利用してみた。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・ケアプラン作成に使用した。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・難病に対しての偏見や誤解があったことに気が付いた。また、病気のことに向き合うことで、結果的にはご本人やご家族に対しても向き合うことが出来た。

### 【AIを使って良かった点】

- ・AIは、知識不足を補ったり、判断に迷っている時に気づきを促してくれるところが良かったです。
- ・ケアプラン作成まではいいのですが、ケアプランを実行する事業所のスキルが問われる部分があり、自分達の地域ではここまですて出来ないかなと思うところがあるため、AIと人力の両輪でプランは作成していくのが、今のところ良いのかなと思いました。

## 事例紹介：介護事業所⑦

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

・支援している自分の担当者

- ①病院から退院し、在宅復帰するケース。病院から情報提供をもとに自宅生活の方針・必要情報の確認するために活用。
- ②いつも同じようなプランになっている利用者のケース。
- ③支援の方向性が見えない(何を軸にしたらよいか迷う)ケース

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ①初回訪問後のアセスメントシート作成時、プラン作成時
- ②プラン更新時、状態変化時

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ①自分の考えていた見立てや視点として間違っていないことが確認できた。
- ②幅広い視点から見立てが示されるため、あまり意識していなかった点の確認ができた。

### 【AIを使って良かった点】

- ①犬(AI)に詳細を確認し、掘り下げていけたこと。
- ②自分の考えていたプランの方向性について、見立て近いことが確認でき、自信につながった。
- ③事業所内ケアマネの相談を受けた際にまずは自分で考えるきっかけ作りになった

## 事例紹介： 介護事業所⑧

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・男性や女性含めて軽度の方へ利用した。
- ・独居で胃切ケース。ヘルパー側の対応困難や配食サービスで摂取出来なものがいくつもあった方。
- ・在宅の方が、近所住民から強い勧めで施設探しをされる。こちらに相談はなく、入所申込をした施設より、連絡があったことにより状況を把握。こちらへあえてお話されておらず、ケアマネとしての対応方法に少し迷いがあった。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・方向性を確認するために活用  
近隣住民と関わる時にSOIN AIチャットを利用した。  
AIからケアマネの介入を勧められたが、本人意向を尊重した場合、適切な対応なのか考えめぐね、何回かやりとりして様子を見ながら対応した。  
「本人が「ここ（家で）死にたくない」と言っているが、在宅生活に不安があるからでしょうか？」など、本人意向を知る上での質問があり、対応を繰り返した。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・自分が考えていた方向性と一致していたことに安心した。改めて自分の考えで良かったと思った。

### 【AIを使って良かった点】

- ・自分自身の悪い部分があると思ったところを再確認ができた。

## 事例紹介:自治体①

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・ケアプラン点検において、地域のケアマネジャーとのコミュニケーションに課題を感じていたため。
- ・AIシステムにケアプラン点検対象者の担当ケースを入力した。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・ケアプラン点検作業時
- ・ケアプラン点検におけるケアマネジャーとの面談時

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・改善志向プランをもとに、利用者の状態予測を確認することで、ケアマネジャー自身が作成したケアプランの方向性や、利用者の自立支援の可能性を模索することができた。
- ・また、AIシステムが分析した情報をもとにケアマネジャーの情報収集状況を見ることで、新しい発見につなげることができた。

### 【AIを使って良かった点】

- ・ケアプラン点検の機会が地域のケアマネジャーにとって、自身の考えが確認できる場となった。ケアマネジャーの笑顔が見れた。

## 事例紹介:自治体②

---

### 【どんな利用者へ利用したか】

- ・自分の担当者。自治体が実施するケアプラン点検のために、利用者情報を入力した。

### 【AIシステムを使ったシーン】

- ・ケアプラン点検において、AI見立て、予測を照らし合わせながら活用した。

### 【AIシステムを使ったあとの気づき】

- ・今までよりよい書き方などの提案ができていなかったが、代替案やこうする方法もあるという提案ができるようになり、とても有用であると感じた。

### 【AIを使って良かった点】

- ・ケアマネジャーという専門性の高い方に対して、指導する立場であっても自分に知識がなく、教えてもらいながらのケアプラン点検であったが、AIがあることで、強い味方がいるような感じがした。ケアマネジャーにとっても、知識のない自治体職員から言われるよりも、説得力もありわかりやすかったのではないかと思う。